

# 令和7年度 岡山県立真庭高等学校専攻科 学校評価書

## 自己点検

大学編入に係る事項

(学校教育法第58条の2 学校教育法施行規則第100条の2 関連)

評価項目	基準の概要	本校の状況	学校関係者評価	
			点検方法	可否
修業年限	2年以上	2年	教育課程表	可
単位認定方法	適切な方法で評価認定されているか	適切	ヒアリング	可
1単位授業科目構成	1単位45時間を標準 講義15～30時間 実習30～45時間	適切	教育課程表 時程表	可
科目構成	大学編入に必要な科目が履修できているか (専門科目 一般科目)	充足	教育課程表	可
修了要件	62単位以上	76単位	単位認定資料 ヒアリング	可
専攻科教員数	3名以上	教諭 3 講師 2 実習教員兼講師 1	学校要覧他	可
専攻科教員資格	告示第63号第11条を満たしているか	全員有資格者	教員免許 (写)	可
専攻科専用教室面積	380㎡以上(確認が必要)	専攻科専用教室423㎡ 看護科実習室740㎡	学校要覧 校内査察	可

# 令和7年度 岡山県立真庭高等学校専攻科 学校評価書

## 自己評価

専攻科の目標	1 国際化、少子高齢化などの社会の変化に適切に対応でき、かつ、感性豊かな時期に「看護のこころ」を養い、実践できる看護のスペシャリストを育てる。 2 看護の役割を認識し、より高度な専門的知識、技術、態度を習得させるとともに課題 解決能力と人間性に根ざした倫理的判断力を養う。 3 地域医療に貢献できる人材を育成する。
重点目標	1 看護の基本的概念を理解し、看護技術に必要な根拠ある知識と倫理的態度を身につけさせる。 2 基礎・基本的な知識や技術を統合し、健康の諸段階にある対象者の個性に合わせた看護実践力を養う。

教育活動に係る事項 (28文科初第35号通知 第1の3関連) 達成状況 ○:十分満足できる状態である ×:改善が必要である(中間期の空欄は今後実施予定)  
達成度 A:十分満足できる B:おおむね満足できる C:不十分である

評価項目	取組内容	評価指標	中間期		年度末		次年度への改善点	学校関係者評価	
			達成状況	達成度	達成状況	達成度		評価方法	評価
人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護職に求められる素養の理解</li> <li>地域医療に対する使命感の育成</li> <li>医療に携わる者としての倫理観の育成</li> <li>自主的な活動を通して協働観を育成</li> </ul>	看護職への理解を深めるような機会がある	○	A	○	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、国際的視点から地域医療を学ぶことを目的に、JAICへの研修ツアーを実施した。さらに人権・差別・倫理についての理解を深めるため、長島愛生園への研修ツアーを3月に計画している。校内にとどまらず、外部へ出向いて多様な価値観に触れながら人間性や主体性を育てる取り組みを次年度も継続して実施していく方針である。</li> <li>社会人講師の講義が例年同じ内容に偏りがちであるため、学生の実情や学習段階に応じた内容へと見直し、学生の興味関心に応じた学びの提供を次年度に向けて検討していく。</li> <li>生徒が自主的に運営、企画を行う様々な自治的活動を実践している。次年度も生徒の主体的活動を重視した指導を行いたい。</li> </ul>	学校要覧 行事予定 学校自己評価	A
		地域医療の現状を知る機会がある	○		○				
		倫理観を育成するための機会がある	○		○				
		自治会組織があり定期的な活動が行われている	○		○				
授業実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>規律ある授業の実施</li> <li>知識・技能の定着</li> <li>思考力・判断力・表現力の育成</li> </ul>	規律ある授業が行われている	○	A	○	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>規律ある授業運営とシラバスに基づいた計画的な指導をおこなった。授業運営は科会議を定期的に行い、情報共有を行いながら進めることができた。ICTを活用した教材提示や動画学習、グループワークなど多様な学習方法を組み合わせ、学生が理解しやすい授業づくりを進めた。また、知識・技能の定着を図るため、振り返りシートや小テストの配信など学習内容を確実に身につける工夫を行った。さらに、事例検討や意見交換を取り入れ、学生が自ら考え判断する力を育成する授業を実施した。ICTの活用については、授業間での活用度に差が生じている課題を踏まえ、次年度に向け、教員間で活用方法を共有し、学習目的に応じた効果的なICT導入を図っていく。</li> </ul>	教育課程 シラバス 授業観察	A
		各科目シラバスに基づいた授業が行われている	○		○				
		知識・技能の定着を図るための工夫がある	○		○				
		発問等に思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫がある	○		○				
臨地実習の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「臨地実習要項」に基づいた計画的な実習の実施</li> </ul>	実習施設が十分確保されている	○	A	○	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨地実習評価にルーブリックを活用することで生徒が自らの課題を明確にし、自己認知することにより課題克服のための手立てを共有している。また、個別指導を通じて、生徒が自信を持って次年度の実習に臨めるよう支援を継続していく。</li> <li>学習習慣の定着ができていない学生や不登校問題を抱えた学生の増加に伴い、実習施設との更なる連携を図り、メンタルヘルスに課題を抱える生徒への支援や引率教員の配置を検討し、臨地実習で適切な指導が実践できるよう改善していく。また、年度末には各施設との臨地実習意見交換会を実施予定。さらなる連携を図っていく。</li> </ul>	臨地実習 の手引き ヒアリング 関係資料	A
		実習期間が適切に配置されている	○		○				
		実習施設と綿密な打合せが行われている	○		○				
		指導体制が適切である(課題・記録の提出 カンファレンスの実施 等)	○		○				
		補充実習が適切に行われている	○		○				
		危機(院内感染対策 実習中の事故等)に対応した管理体制(予防接種・緊急連絡方法等)が	○		○				
進路状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療に貢献できる看護師の育成</li> <li>個の能力に応じた進学指導の実施</li> </ul>	地元医療施設の就職説明会を実施している	○	A	○	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>模試の分析などをこまめに行い、学生の学習状況に応じた補習指導と、精神的な負担を軽減するためのメンタル支援を強化した。基礎学力の定着が必要な学生に対して個別指導や小グループでの学習支援を実施し、理解度に応じたフォローを行った。</li> <li>看護協会真庭支部に協力いただき、校内での就職説明会を実施した。これにより地元医療機関への理解が深まった。次年度も協力依頼を行い継続していく。</li> <li>2月10日現在11名中10名の進路が決定している。本年度、地元医療機関に5名の就職は内定しており、昨年より高い水準での就職となっている。また、進学者は大学編入1名である。今年度の進路実績を分析して次年度以降の進路指導に生かしていく。</li> <li>今年度、休学者1名、退学者0名。</li> </ul>	過去3年 間の進路 状況 ヒアリング 学校自己 評価	A
		地元医療施設へ就職している	○		○				
		個の希望に応じて高度医療に対応できる人材育成のための進路指導ができています	○		○				
		資格取得(国家試験)に向けての指導が適切に行われている	○		○				
		助産師・保健師等への進路指導が適切に行われている	○		○				
		進学(大学編入学)に向けての指導が適切に行われている	○		○				